

海國圖志



夫と書畫の藝は大有るや。是れ我舒まば乾坤小  
 彌り。是を巻けば懐掌小藏は五寸の筆管を  
 弄びて造化の秘蘊を現し三歳の童子とて  
 億萬世の古人を友とせし免。修身齋家之道を  
 知り。貴賤上下の分を辨ふるも。皆書畫の徳成  
 ぶらわ。古の繩を結びて印とありし小鳥の跡を  
 學びて篆書起り。篆籀古文の八體分る。



竟ま小こ隸れい書しよの形かたち小こ歸き。再またび真まこと行ぎやう草そうのかたち体たい小こ  
 移うつる世よのありさま有あ様さま小こ隨したがひて。變か革くわくよること夏なつ此こゝの如ごとし  
 畫えも亦また然しかり其その初はじハ龜かめト小こよりて形かたちと成なり。終はつ  
 小こ山さん水すい小こ丹たん青せいト水みづを治をさめ。萬ま像ざうを寫かし  
 不ふ易えきの規き摸ぼをあらはす。則すなはち書かと畫えとの車くるま  
 の兩りゆう輪りんあらが如ごとく。須す臾じゆも離はなるべからずば終はつ  
 小このあり。心こゝろ動うごくこと多おほ言こと語ごを發はし。言こと語ごハ文ぶん字じ小こ

形かたちを成なす書か亦また變かトて畫え小このかたちは千ち代だい小こ八はち千せん  
 代だい小こ礫れき石せきは。巖いわとありて苔こけむすむこと日ひの行ゆ駒こまの  
 片かた時ときもあること多おほ士し農のう工こう商しょう日にち用ようの言こと葉えの文ぶん字じ小こ  
 形かたちを畫えき。今いま兒こ愛あい娘むすめの早はや解と一ひと寸すん画え工こうの手てと假かりて  
 高たか賣う往かう來らい繪え字じ引ひ成なり

又玄齋南可識



禮  
あつちしつと進中の人をいんば  
下をめぐみよと成るやま

樂  
糸竹のたふまはる代つりてあま  
あまびとまふあまびとまふり

射  
らまらうま城をさひかひか  
この物なたるぬをうた

御  
世儀の人のむらもあま  
のうたててあまやうた

書  
らみうたを字の山の暮と  
あまのむらぬ人のまら

數  
そのまらりれらるるあま  
あまらりりりりりりりり



# 高貴性来繪字門

## 凡高貴持扱文字負教取

### 造之日記

### 代文

### 注文



家藏地不永代書  
以て不永代書用その外  
五形のも代文あり

是諸國を  
性来取の  
代名人を



注文の切書  
寸法を  
見せしむ



質与在石

是の石の  
質は  
よくあり

貫石分厘

毛拂石

あまの  
石の  
大敷小敷を  
きき目  
を同  
を厘一毛  
量用あり

以天秤



天秤より  
綱ひく  
目方を見る

分綱



分綱  
あり

世相遠刻奇可令賣買通



世相遠  
刻奇  
可令  
賣買通



右の  
八重  
小あ

雜穀



稷糯



早稻

早稻



晚稻

晚稻



右米

右米



新米

新米



鉄の  
器

麦 あぶら  
 大豆 あぶら  
 小豆 あぶら

大豆 あぶら  
 蕎麦 あぶら  
 粟 あぶら

稗 あぶら  
 苧麻 あぶら  
 苧 あぶら

桑種 あぶら  
 廻 あぶら



船敷艘 せん



せん

積登 せき

同屋之藏入庄 どうやのくらいり



直陸国合相場 ちくりくこくあひあひ



不残於賣拂者運賃 ぶざんうりばしりやうんちん





**油**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

**醬油**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

**酒**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ


**麵**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ


**紙**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ


**墨**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ


**燭**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ


**筆**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

**有損失者ハ辨之**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

**利涇之程**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

**出入之**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

**其引相宥於合助**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

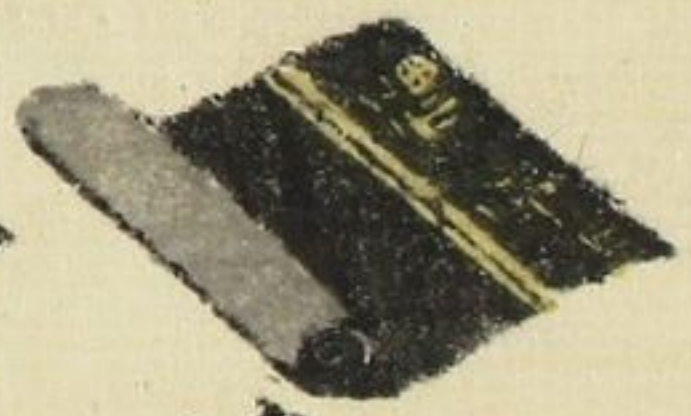
**水上口渡**  味香ハ大至成焚ハさけ  
と隆カリシハ油  
入ニ製ナリ

考也 世外 絹布之類 金襴



金襴の類 絹布の類 金襴糸入と

縐子



縐子 絹布の類 金襴糸入と

縐子

縐子



縐子 絹布の類 金襴糸入と

紗縷

縐子



羽二重

羽二重



羽二重

水漬生絹



水漬生絹

天誓絨



天誓絨

羅紗



羅紗

羅脊板

羅脊板

羅脊板

羅脊板

綉 油 麻



綉の類あり  
絹の類あり  
麻の類あり

油の類あり  
麻の類あり  
絹の類あり

麻の類あり  
絹の類あり  
麻の類あり

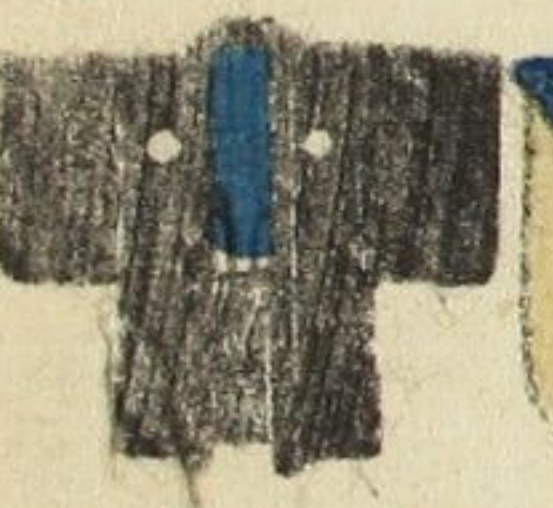
絹の類あり  
麻の類あり  
絹の類あり

羽織

有衣

袴

木綿



羽織の類あり  
有衣の類あり  
袴の類あり

有衣の類あり  
袴の類あり  
木綿の類あり

袴の類あり  
木綿の類あり  
絹の類あり

木綿の類あり  
絹の類あり  
麻の類あり

物



物の類あり  
絹の類あり  
麻の類あり

真綿摘綿



絹の類あり  
麻の類あり  
絹の類あり

産綿

絹物 桑物 絹

産綿の類あり  
絹の類あり  
麻の類あり

先纏



先纏の類あり  
絹の類あり  
麻の類あり

絹の類あり  
麻の類あり  
絹の類あり

絹の類あり  
麻の類あり  
絹の類あり

月經



細く熱々の名  
多し袖末を纏  
利由と格に

袴



袴の色は夏  
九月八月より  
振る

草物



油木箱  
箱の中  
の草物

帷子



帷子の  
色は  
帷子の  
色は

袷着



袷着の  
柄は  
袷着の  
柄は

蒲團



蒲團の  
色は

布の布  
巾着

蚊帳



浴衣

浴衣の  
色は



高座の  
巾着

風呂敷



風呂敷の  
色は

正統



正統の  
色は

帛紗



帛紗の  
色は

帯



帯の  
色は

足巾



足袋

足袋の  
色は

足袋は白く縫う  
 縫うは白く縫う  
 縫うは白く縫う  
 縫うは白く縫う

長深色緋



赤



檜皮



紫



舞金



木賊



浅黄

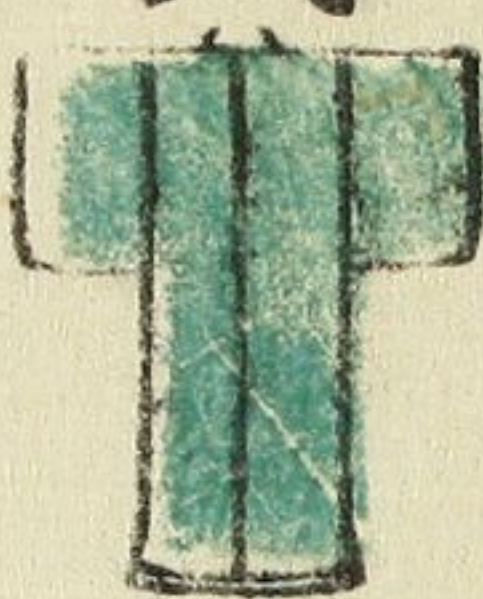


赤



深之類

前黄



蕨柄



苗

大柄  
 とあるト  
 ありあり

紅粉



赤  
 赤  
 赤

平

深

入



是ハ  
 是ハ  
 是ハ

紋

紋  
 紋  
 紋

經

教



上  
 上  
 上

雛之菊



立

高  
画

浪  
雪  
水  
車



沖  
所  
車  
菱  
輪

遠  
九  
曜  
四  
目  
結



友  
萬  
巴

破  
將  
水  
唐  
車  
女

臺  
之  
好  
換  
松  
恰  
好  
一  
分  
得  
也

高  
画



# 用具



見へ緒織は紙織の  
外十人の拾好なる  
海軍の事あり

# 武士

其の家  
の用具  
其の  
多  
く  
其  
の  
用  
具  
六  
等  
其  
一  
二  
三  
を  
ふ  
む  
ま

# 其不殆

# 多明燭之分

# 矢



矢の羽は鳥の羽の中  
切れぬの外あり

# 旗物



# 長刀



長刀の形ありあり中  
あり多しとあり

# 鉢



# 槍



槍の柄は木柄ありあり  
楠木付代下りありあり  
十文字大柄槍ありあり

# 鎧



鎧の  
ありあり

牽ぶろ二枚... 二枚ある大種... 中右... 二枚... 此の二枚... 沢田... 新儀... 外... 此の二枚... 沢田... 新儀... 外... 此の二枚... 沢田... 新儀... 外...

兜



瓶



瓶



瓶



瓶

瓶



瓶

江戸



江戸



漆



漆

漆



漆

腰帯



腰帯

腰帯



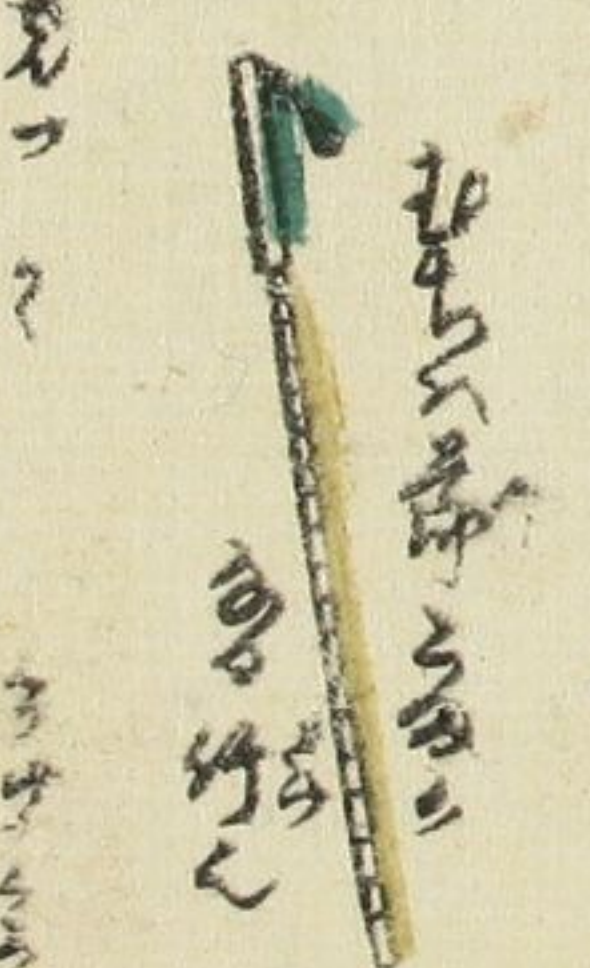
腰帯

鞍履



鞍履

鞍履



美縄



美縄



美縄



叔亦刀 腰差

之 拵目黄

鞍 縁 柄

改 鞘 拵



組

切羽

鞘

鑄圓



鑄



鑄具

好



赤銅

真珠



赤銅は下一の外は...

鑄圓の...

鑄具の...

高

減金



素絹

素絹



鉄



象股



象股

居紋彫物

細之者



細之者

摺り廻り

時之風情



時之風情



唐物

唐物



和物

和物之家



和物

珊瑚



珊瑚

珊瑚



珊瑚

珊瑚



珊瑚

珊瑚

馬のつらみ  
馬のつらみ  
馬のつらみ  
馬のつらみ

琥珀

琥珀の白  
琥珀の白  
琥珀の白  
琥珀の白

漆

瑠璃  
瑠璃  
瑠璃  
瑠璃

水晶



水晶の  
水晶の  
水晶の  
水晶の

青

貝車  
貝車  
貝車  
貝車



貝車の  
貝車の  
貝車の  
貝車の

漆  
漆  
漆  
漆

香爐  
香爐  
香爐  
香爐



香爐の  
香爐の  
香爐の  
香爐の

唯朱之  
唯朱之  
唯朱之  
唯朱之

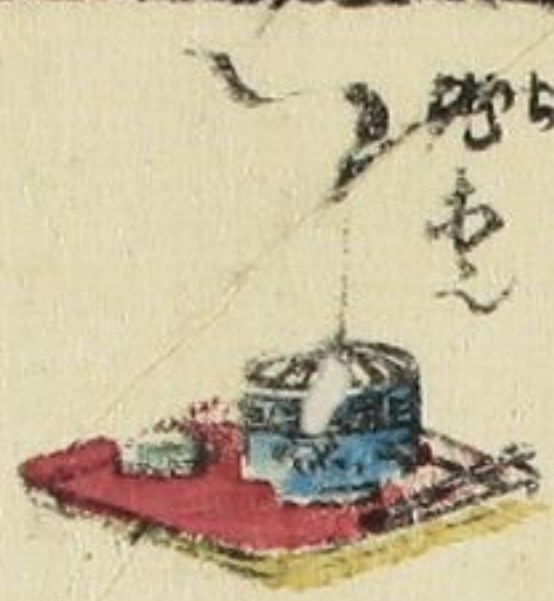
香合  
香合  
香合  
香合



香合の  
香合の  
香合の  
香合の

香盤  
香盤  
香盤  
香盤

香盤の  
香盤の  
香盤の  
香盤の



海繪梨子地之  
海繪梨子地之  
海繪梨子地之  
海繪梨子地之

海繪の  
海繪の  
海繪の  
海繪の

硯箱  
硯箱  
硯箱  
硯箱



硯箱の  
硯箱の  
硯箱の  
硯箱の

文庫  
文庫  
文庫  
文庫



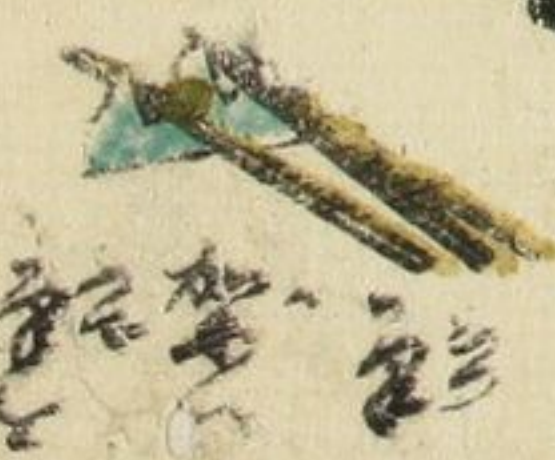
文庫の  
文庫の  
文庫の  
文庫の

文臺  
文臺  
文臺  
文臺



文臺の  
文臺の  
文臺の  
文臺の

字架  
字架  
字架  
字架



字架の  
字架の  
字架の  
字架の

掛座拍子  
又  
香煙のたき

硬屨



硬屨のたき  
又  
香煙のたき

文鎮

紙をたき  
又  
香煙のたき

徳石



徳石のたき  
又  
香煙のたき

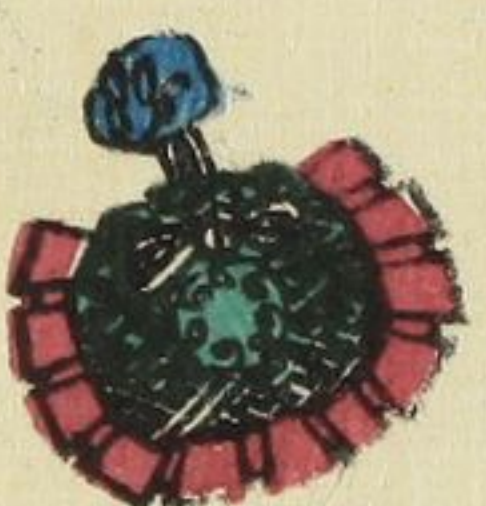
南系石

月鑑



又ハ大小の  
月鑑のたき

中巻



中巻のたき  
又  
香煙のたき

次

茶籠  
又  
香煙のたき

中巻

雅具者首飾



雅具者のたき  
又  
香煙のたき

狭箱



大箱のたき  
又  
香煙のたき

長持



長持のたき  
又  
香煙のたき

櫃

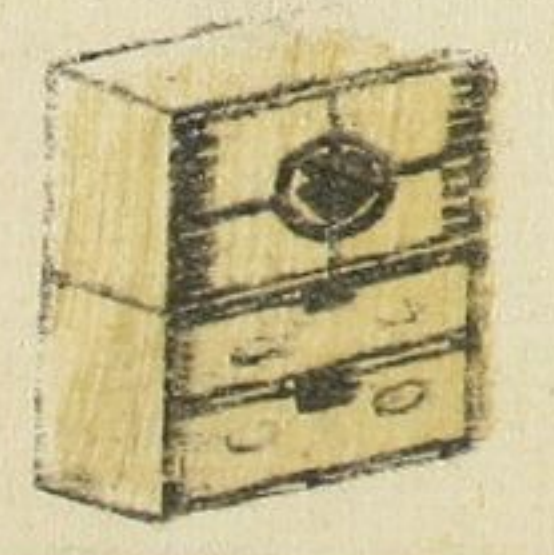
戸棚

戸棚のたき  
又  
香煙のたき

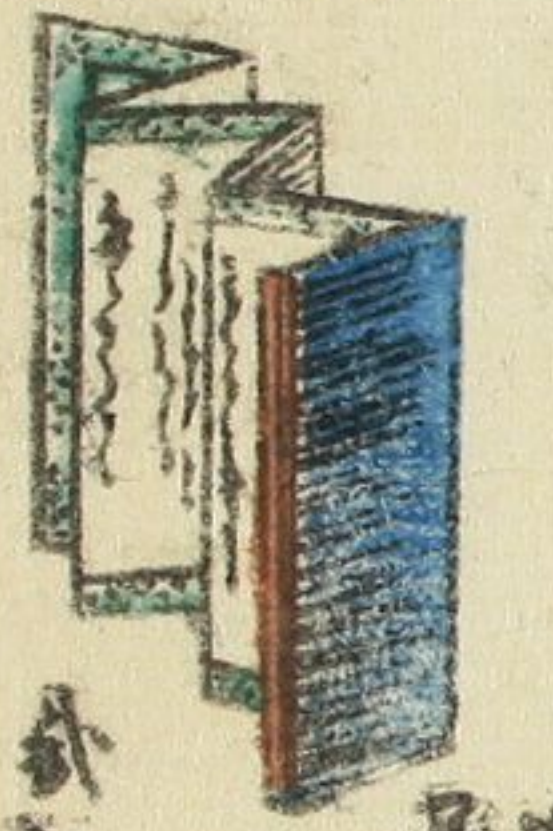


大箱のたき  
又  
香煙のたき

筆筒



屏風



屏風のたき  
又  
香煙のたき

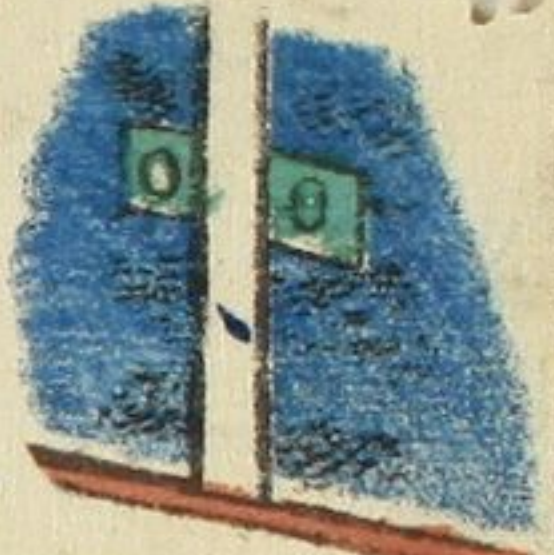
衝立



屏風

衝立

後



是今の代の  
後と云張  
ふかろを

戸



障子



簾



幔幕



椀



新袋



湯桶



切立



安当



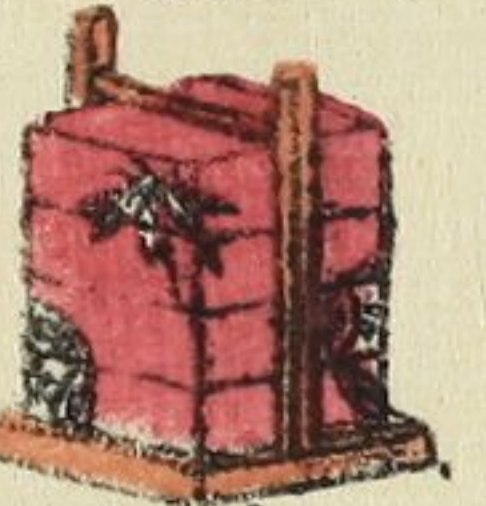
食籠



重箱



提籠



水盆



皿



鉢



盃



桐渦



德利



湯



庖丁



生膳箸



燭臺



以燈



提灯



炬燵



茶罐



罐子



茶碗



茶柄杓



鹽



椀



搔着



碓



罐



箕



扇

版銅



編笠

笠



傘 かさ



是紙のくちや  
張りよみ  
沖と引用

木履 きぞうり



木

外 ほか

多 おほく 直 ちか 下 げ 座 ざ 時 とき 不 ふ 見 み 合 あ 可 か

為 な 賣 う 買 か 也 や 業 わざ 種 しゅ 香 かう 具 ぐ 之 の 類 るい



業種香具の類  
おのれ清店の類  
板ふき

松 しょう 栴 ぜん 子 し



ト

大 おほ 黄 わう



大黃の本の  
根のじ

细 さい 辛 しん



河 か 仙 せん 菜 さい



河仙菜  
赤

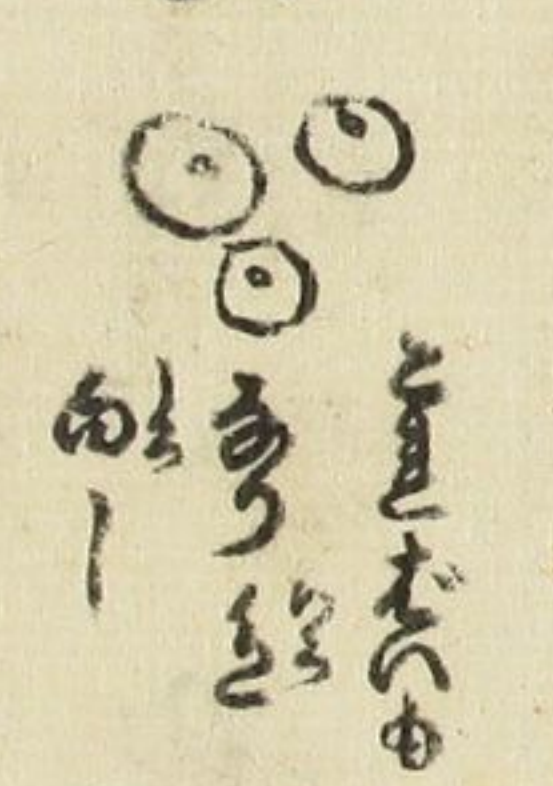
石 いし 斛 こく



河 か 櫻 おう



貝 かい 母 ぼ



獨 どく 活 かつ



其 その 草 くさ

肉 にく 桂 けい

苦 く 菜 さい 香 かう





高 たか 麗 れい

川芎 せんきう 山南 さんなん 海狗 かいこう 藿香 くわくかう 杏仁 せんじん

連翘 れんじゆう 二陵 にりやう 白芷 びやくし 陳皮 ちんぴ

 茴香 かうかう  羌活 きやうかつ 

桂枝 けいし  半夏 はんげ 莪朮 おじやく 

かき 枳殼 しき  巴豆 はとう  桃 とう

仁 にん  蓮肉 れんじゆ  杏仁 せんじん 

伽羅 かりん  麝香 じやくかう  麝腦 じやくのう

撞腦 つうのう 沈香 ちんかう  白檀 びやくだん  丁 てい

蘭





鰯



鰯



鰯



鰯

鰯

鰯



鰯

鰯

鰯

鰯

鰯

鰯

鰯

五倍魚

糖漬魚

鰯

鰯



鰯



鰯



鰯

鰯



鰯

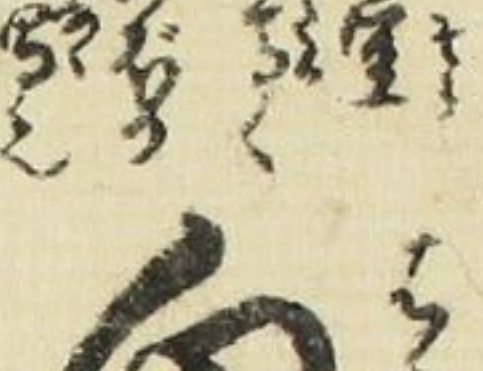


鰯



鰯

鰯



鰯



鰯



鰯



鰯

鰯



鰯

鰯



鰯



親心也



親心也の  
読み方

錯國之名物

倭士深限令畧之平



舟の  
読み方



右之也と右法流為混

礼唯初学堂



初学堂の  
読み方



平生之取扱文字之任思出

祖地者也於高貴家生筆

後切雅之附之入在切善初之



是南家ふまろゆあは玉城の門下師匠とて  
十数年の間に一冊の書を著し、其の  
成書の後、其書の用と授かる小書と

執以

# 二の肝意也管の飲



飲の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 連方



連方とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 佛指

佛指とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。



此の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 立死



立死とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 湯類



湯類とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 茶之湯



此の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 徳



徳とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 茶



茶とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 鼓



鼓とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 六鼓



六鼓とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 笛



## 琴



琴とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

## 管

管とは、茶を飲む事也。其の意は、外に傳りて、茶を飲む事也。

倭言家業有法力主也者矣

の相嗜も若基

将泰 双六

淨瑞瑠 小圓



酒宴在興 或孝不惑分



家宅 宋水築山



樹木 酒池内林と他を異をわづかす



花之樂也



花の樂は、世に傳へたるものなり。其の趣、神妙なるを、人々共に見て、心奪はるるなり。

花

金銀車



或は、此の車、又は、此の車、其の趣、神妙なるを、人々共に見て、心奪はるるなり。

金

嘉淑被滅之其後也也其世者

奇藤



此の世に、此の世に、其の趣、神妙なるを、人々共に見て、心奪はるるなり。

扶

魚書



魚の書、其の趣、神妙なるを、人々共に見て、心奪はるるなり。



魚の書、其の趣、神妙なるを、人々共に見て、心奪はるるなり。

つる茶和



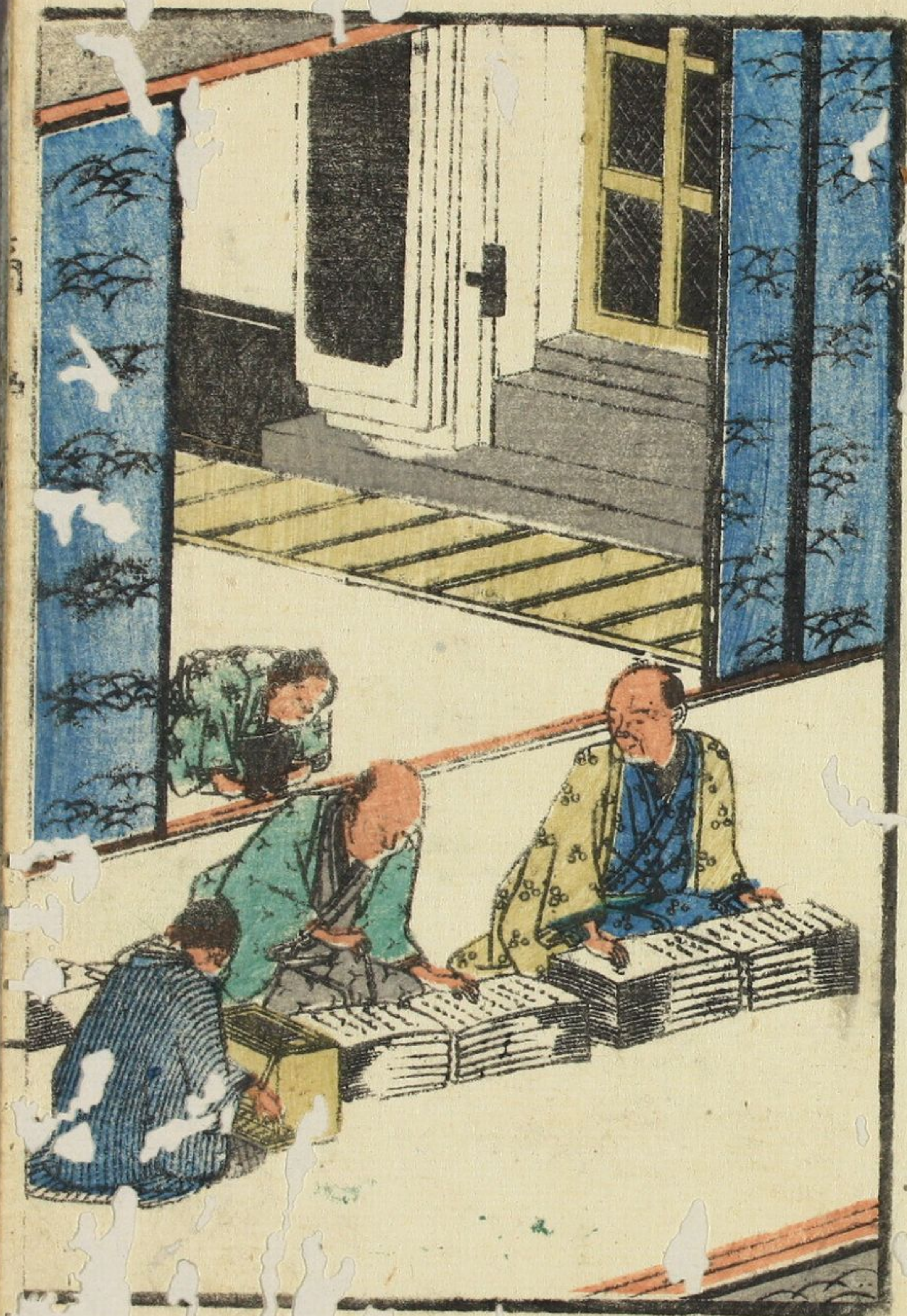
つる茶和、其の趣、神妙なるを、人々共に見て、心奪はるるなり。

大

利捺人之月家天野寺堂名

同来人之禘也天道働業也

高





唯爾有怒焉子孫榮於之

相也倍之利淫也

如件

おろろろく己かありひをつとあり海者  
見せきたる正徳小南賣とあるとまれ別秀  
みけい家富子孫榮らるるひもたあり

東京府

書林

中橋東中通下植町

岡	和	山	山	須	出	和	須	英	森	山	大
四	泉	城	城	原	雲	泉	原	原	屋	口	和
屋	屋	屋	屋	屋	寺	屋	屋	屋	屋	屋	屋
嘉	市	佐	政	茂	萬	金	伊	文	次	藤	喜
七	兵	兵	兵	兵	次	右	八	兵	兵	兵	兵
衛	衛	衛	衛	衛	郎	衛	門	歲	衛	衛	衛

